

視察等報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 掛田 勝彦

下記のとおり、視察が終了したので報告します。

		会派代表者	掛田 勝彦	経理責任者	増田 誠宏
視 察 議 員	掛田 勝彦				
期 間	令和 7 年 2 月 6 日（木）～ 令和 7 年 2 月 6 日（木）				
視 察 先	岡山県津山市山北 5 0 0 岡山県美作高等学校				
視 察 用 務	学びの多様化学校（不登校特例校）について				
視察先対応者	学園理事 高校事務部長				
概要及び所見	2024 年 4 月に中国地方初となる学びの多様化学校（いわゆる不登校特例校）を開設された美作高校に行き内容を伺った。学びの多様化学校とは、学習指導要領の内容などにとらわれずに、不登校の状態にある児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成し、教育を実施する学校であり本校では全日制普通科の一つとして設置している。Bloom コースは何らかの心因的理由によって、学校で勉強したくても登校できない人、あるいは教室に入れない人のために、中国地方で初めて設置された特筆すべきコースでもある。美作高校が長年培ってきた教育相談や生徒支援の経験を活かし、対面による生徒とのつながりを大切にしながら、生徒が自らの未来を主体的に捉え、将来にわたって自立的に生きていくことを目指すといった概要的な説明を受けた。 同高の Bloom コース設置に至るまでの沿革を交えてのお話の中で、令和 6 年 4 月現在、全国に 35 校設置され（高等学校は 6 校）昨年よりも 11 校増加したと説明があった。 Bloom コースの教育方針については、生徒の主体性を高め、社会的自立を目指すことにも触れられた。その中で安心できる生活環境につ				

いて説明を受けたが、柔軟性を持った対応ができている内容になっていると感じた。コースの特徴でもあり安心感にも繋がる。教育課程は、従来の教育課程にとらわれることなく自由なカリキュラムを学校独自で作って良いとのことだった。その他の特徴として年間の授業時間数の三分の1はオンラインで行い、オンデマンド型授業により出席を認めるというものだった。また、コース変更が可能で2年時から Bloom コースから他のコースへ変更することもでき、3年時の進級時には他のコースから Bloom コースへ変更もできるというものだった。

さらに郊外活動や交流活動、宿泊体験も取り入れて教育活動が展開されている説明も受けた。2年時で行われる修学旅行は Bloom コース独自の行程を行う計画があることを聞いた。何人かの生徒の変化のお話しも聞いたが、中学校の時とは違う積極的な面が出ている内容だった。結局、子どもたちの適した学びが多様化している状況で、学びの多様化学校のニーズはあると思った。

全日制の高等学校に頑張っていた生徒で卒業・就職して自立したケースも知っている。少しハードルが高い場合、他の選択肢として学びの多様化学校が必要になると思った。結局、不登校の児童・生徒の学びを保障するためには、本人が既存の学校社会に合わせていくことが難しいケースもある。学校の仕組みを柔軟にしていくことで、本人に合わせていくことは重要であると美作高校の現場のお話を聞いてそう思った。選択肢の1つとして必要だと感じる学校視察の内容だった。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 増田 誠宏

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 7 年 2 月 6 日（木）
用 務 先	岡山県美作高等学校
用 務	学びの多様化学校の視察
概要及び所見 （目的，参考 にすべき事 項，提言，活用 策等）	視察説明 事務部長 1. 学校沿革 美作高校は創立 109 年目を迎える私立高校で、もともとは地域の人々が設立した女子校だった。約 30 年前にコース制を導入し、生徒が自分のやりたいことを選べる仕組みを整えた。地域のための学校として、不登校支援にも早くから取り組み、平成 10 年には教育相談室を設置している。 2. 通信制のスタート 美作高校では、公立高校に進学できなかったり、中途退学した生徒などを受け入れるために通信制課程を開講した。特に不登校の生徒が増えたことを受け、現在は約 150 名が在籍しており、その半数が不登校経験者である。単なる卒業資格取得を目的とするのではなく、教育の質を重視し、コミュニケーション能力の向上にも力を入れている。広域通信制ではなく、岡山県や地元地域の生徒を対象にしていることが特徴であり、社会に適應できる力を育むことが課題となっている。 3. ブルームコース、学びの多様化学校（不登校特例校） このコースでは 3 割までオンライン授業の活用も可能だが、オンラインだけでは通

信制と変わらず、社会での適応力を養うことが難しいと考えられている。そのため、対面での学びを大切にし、高校生活を通じた成長を重視している。学校側も、生徒の姿勢や意見から多くを学びながら運営している。

4. 不登校支援の取り組み

平成 10 年に教育相談室を設置し、平成 13 年には単位制通信課程を開講。その後、平成 20 年には文部科学省の教育改革推進モデル事業に参加し、平成 21 年には美作地域不登校支援ネットワークを設立した。このネットワークは小・中・高校や行政機関、医療機関をつなぐもので、年 2 回無料相談会を実施している。中学校側も協力的で、学校間の連携が強く保たれている。2023 年には鹿児島県のじょうせい高校を視察し、2024 年 2 月に正式に「学びの多様化学校」として認可を受けた。

5. ブルームコース、受験資格と入試の概要

対象地域は岡山県内と兵庫県佐用町で、心因的な理由により年間欠席日数 30 日以上
の生徒が受験可能。診断書の提出が必要だが、比較的容易に取得できる。定員は 20
名程度で、事前面談が必要となり、専願のみの募集である。

1 期生は県内から 22 名（男子 10 名・女子 12 名）が入学し、そのうち 1 名が男子寮
に入寮した。多くの生徒が中学校時代に不登校や別室登校を経験しており、不登校
になった理由を自分でもよく理解していないケースが全国的に見られる。

入試の面接では、「これまでできなかった学校行事に参加したい」「教室で友達と一
緒に過ごしたい」「勉強の遅れを取り戻したい」などの希望を語る生徒が多く、実際
に 2 年次から進学コースへ移る生徒もいる。

6. コースの教育方針と環境

生徒の主体性を高め、社会的自立を目指すことが教育方針であり、対面によるつな
がりを大切にしながら、教員は伴走者として支援する。学校行事への参加も生徒の
自由な選択に委ねられており、入学式への出席も本人の意思で決めることができる。
安心できる生活環境を提供するため、登校時間を 1 時間遅らせ、学校内には相談や
休養ができるスペースを設けている。学習面では、中学校範囲の学び直しを重視し、
生徒の習熟度に応じた指導を行う。また、校内外での体験活動を通じて人との関わり
を学ぶ機会を提供している。

教育課程では、自由度の高いカリキュラムが特徴で、必修科目の単位数を削減し、
学校設定科目「みまラボ」などで補う。オンライン学習は全授業の 3 分の 1 まで認
められ、オンデマンド授業での出席も可能としている。

コース変更も柔軟に対応しており、一般コースの生徒が 2 年次・3 年次からブル
ームコースへ移動することができる。逆に、ブルームコースの生徒も 2 年次から一般
コースへ移行できる仕組みを整えており、全国から視察が訪れるほどの先進的な制
度となっている。

7. 独自カリキュラムと体験学習

プレミラボ、みまラボ、サクラボという独自のカリキュラムを展開し、毎週水曜日にはバスで旧鏡野町奥津キャンパスへ移動し、実践的な学習を行う。このプログラムでは、高齢者福祉施設での交流や保育園児とのふれあい、森林セラピーや農業・農産加工体験、スキー・スノーボード体験などを実施している。

また、ソーシャルスキルトレーニング（SST）では、自分の気持ちを言葉で伝える力や、相手の気持ちを理解する力を育成し、人前でパフォーマンスをする力も養う。キャリアデザイン教育では、2・3年次にかけて、自分の強みや将来像を明確にし、主体的に行動できる力を身につけることを目指している。

8. 生徒・保護者・教職員の変化と課題

生徒の変化としては、当初不安を抱えていた生徒が、クラスメートや先生との会話が増え、学校生活を楽しめるようになってきている。行事への参加も自ら選び、部活動にも積極的に取り組む姿が見られる。保護者も、子どもが笑顔を取り戻し、家庭内の雰囲気が明るくなるなど、ポジティブな変化が報告されている。

教職員の間でも、生徒や保護者との距離感の取り方が上手くなり、教員同士のつながりも深まった。また、不登校支援の取り組みが間違っていなかったことを実感している。

一方で、欠席が続く生徒への対応や、保護者との連携などの課題も残されている。進級判定については、補習を夏休みや冬休みに実施し、3月31日まで粘り強く対応する方針をとっている。

9. まとめ

美作高校のブルームコースは、不登校経験者に対する手厚い支援を特徴とし、生徒の主体性を尊重しながら学びの機会を提供している。独自のカリキュラムや体験学習を通じて、社会適応力を養い、将来的な進学や就職への道を広げる取り組みがなされている。今後の課題としては、定員枠の拡大や欠席生徒へのフォロー体制の強化などが挙げられる。不登校は社会的な問題として増加傾向にあるが、家庭環境や個人の問題だけでなく、社会全体の変化が関与している可能性が指摘されており、引き続き多様な支援が求められている。

視察・研修報告(復命)書

三次市議会議長 様

報告者氏名 藤岡 一弘

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田 勝彦

経理責任者氏名 増田 誠宏

期 間	令和 7 年 2 月 6 日(木)
用 務 先	学校法人 美作学園 岡山県美作高等学校(岡山県津山市山北 500)
用 務	美作高等学校における学びの多様化学校(Bloom コース)の視察
概要及び所見 (目的, 参考にするべき事項, 提言, 活用策等)	1. 学校法人 美作学園 岡山県美作高等学校 Bloom コースの概要 (1) 学びの多様化学校について 学習指導要領の内容などにとらわれずに、不登校の状態にある児童生徒の実態に配慮した特別な教育課程を編成し、教育を実施する学校である。美作高等学校では全日制普通科の一つとして設置している。 (2) Bloom コースの教育方針 何らかの心因的理由によって、学校で勉強したくても登校できない人、あるいは教室に入れない人のために、中国地方で初めて設置された「学びの多様化学校(いわゆる不登校特例校)」である。本校が長年培ってきた教育相談や生徒支援の経験を活かし、対面による生徒とのつながりを大切にしながら、生徒が自らの未来を主体的に捉え、将来にわたって自立的に生きていくことを目指す。 (3) Bloom コース 3 つの特徴 ① 安心できる学習環境 朝登校しづらい方のために、また、他のコースの生徒との接触を極力減らすために、始業時間を 1 時間遅らせている。勉強や学校生活について相談できる落ち着いた環境等、安心して学習に取り組める環境を提供する。さらに、生徒一人ひとりの習熟度に合わせた学習やクラスメイトと行う協働学習により、人との関わりを大切にした学びを深める。

② 本校独自のカリキュラム

学校内外での様々な体験活動や特色ある授業を通して、夢や目標に向かって主体的に考え行動する力を育む。

・ プレみまラボ、まみラボ、サクラボ

みまラボの「みま」は「美作高校」のみならず「美作地区」、「ラボ」は laboratory の略で「研究所」を表している。美作地域全体をフィールドワークとし、五感を使った体験・研究・発表等の学習を行う。

・ ソーシャルスキル トレーニング

様々な場面を設定したロールプレイを通して、自分の気持ちを自分の言葉で伝える力、相手の気持ちをくみ取る力、人前でパフォーマンスができる力などを身につける学習を行う。

・ キャリアデザイン

自分の強みや特徴、自分自身がどのような人間になりたいか、どのように生きていきたいかを明確にしながら、主体的に行動できる力、人生観、職業観等を身につける学習を行う。

③ 人とのかかわる力を育む「体験学習型・探究型の社会的活動」

“地域がキャンパス、地域の皆さまが教科書”として位置づけ、②で身につけた力を保育施設、高齢者福祉施設への訪問や農業体験等で発揮し、さらに、生きる力へとつなげていく。

2. 所感

この度、三次市においても学びの多様化学校導入を検討している中で、学校法人 美作学園 岡山県美作高等学校 Bloom コースを視察させて頂いた。美作高等学校では、中・四国地方の高校として初めての設置で、「Bloom(ブルーム)コース」と名付けて新設した。約半年が経過する中、入学した 22 人のうち約 8 割の生徒が順調に登校できているとのこと。

部活動においては、水泳部や陸上部、茶道部などに入部しており、他クラスに友だちができ、教員にも積極的に話しかけるといった変化が表れている。子どもが笑顔になったことで家族の笑顔も増えたほか、保護者の会が立ち上げられている。

一方で課題として、欠席が続く生徒、保護者への対応や生徒の将来を見据えた指導・支援などを挙げ、「今後も地域の理解と協力が必要」と説明を受けた。

今後の三次市における学びの多様化学校導入の参考にしたい。

視察・研修報告（復命）書

三次市議会議長 様

報告者氏名 徳岡真紀

下記のとおり、視察・研修が終了したので報告します。

会派代表者氏名 掛田勝彦

経理責任者氏名 増田誠宏

期 間	令和 7年 2月 6日
用 務 先	岡山県美作高等学校
用 務	岡山県立美作高等学校における学びの多様化学校(旧不登校特例校)の取り組みについて視察
概要及び所見 (目的、参考 にすべき事項、 提言、活用 策等)	岡山県美作高等学校は創立 109 年を迎える伝統ある学校であり、地域とともに歩んできた「地域立」の学校であるという認識のもと、教育の多様化に対応する新たな取り組みとして 2024 年 4 月に中国地方初の「学びの多様化学校(不登校特例校)bloom コース」を新設した。本校では 30 年前から校内に教育相談室を設け、平成 13 年には通信制課程を立ち上げるなど、不登校や多様な事情を抱える生徒の受け入れに努めてきた。 不登校の背景には心因的な要因があり、家庭や社会、地域との連携が不可欠であるという考えのもと、平成 21 年には小中高や医療機関、行政をつなぐ「美作地域不登校支援ネットワーク」も設立された。こうした土壌の中で、従来の通信制とは異なり「顔の見える関係性」を重視した全日制の bloom コースが誕生した。 このコースは心に不安や悩みを抱える生徒を対象に、岡山県内はもちろん遠くは、兵庫県佐用町からの生徒も在籍する。入試では教科試験を行わず、面接と作文によって受験生の思いや状況を丁寧に汲み取る形式をとっている。2024 年度の一期生は 22 名(男子 10 名・女子 12 名)で、いずれも中学時代に不登校や別室登校の経験があった。 bloom コースの教育方針は「生徒の主体性を高め、社会的自立を目指す」ことであり、教員は生徒の伴走者として接し、学校行事も生徒自身が

	選択して参加する形式をとっている。また、朝の始業時間を 1 時間遅らせることで登校への心理的ハードルを下げる工夫がされており、相談室へのアクセスも良好な配置となっている。 学び直しとしては、入学後 2 学期の中頃まで中学校内容の復習を行い、習熟度に応じた指導を実施している。教育課程では全 81 単位中 43 単位が学校独自の設定科目であり、数学の「プレみまラボ」や家庭科の「みまラボ」など、美作地域の特性を活かした体験学習が展開されている。 1 年次から 3 年次にかけて「プレみまラボ」→「みまラボ」→「サクラボ」と発展的に学びを深めていくプログラムが用意されており、地域の高齢者や園児との交流、森林セラピートレッキングや農業体験、スキー研修など多様な体験活動も行われている。 また、年間授業時間数の 3 分の 1 まではオンラインによるオンデマンド授業の出席が認められており、学習と心身の状態の両立を図る柔軟な対応が可能となっている。進級やコース変更も柔軟に認められており、bloom コースから普通科他コースへの移行やその逆も可能である。実際に一期生のうち 3 名がコース変更を経験している。 bloom コースには 4 名の教員と教育相談担当、教頭がチームとなって運営にあたっており、授業や支援体制についても柔軟な対応がとられている。通学が困難な生徒には補習などを通じて個別に進級の可否を判断しており、一人ひとりに寄り添った教育が行われている。 この取り組みは生徒本人の変化だけでなく、保護者や教職員にも大きな影響を与えている。保護者は子どもが笑顔を取り戻したこと、将来について語り始めたことなどである。 また、保護者同士のネットワークや交流の場も自然と生まれている。教職員にとっても、生徒の成長を身近に感じられることで教育の意義を再確認し、次の取り組みへの意欲にもつながっている。 bloom コースの取り組みは私立学校としての柔軟性を活かしつつ、公教育としての役割も果たす新たなモデルケースだろうと考える。今後はさらなる広報活動や相談体制の強化、校内外の支援機関との連携を深めていくとのこと。 「多様な居場所や学びの場の創出に取り組み「家庭以外で誰ともつながっていない児童生徒の数」を「ゼロ」にするということを目指している本市でも、さまざまな理由で年々増加する不登校児童生徒への一つの学びの場またはそれ以上の居場所の一つとして早急に取り組む必要性を感じた。
--	--